



建築の使用者である人間が、常に見て、触れている建築の部分は、仕上げ材料です。この分野は、人間の最も身近にある分野であり、そのぶん検討すべき項目も多い分野でもあることから、日々研究に勤しんでいます。

略歴

1991年生まれ 博士（工学）

- ・東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系
博士課程 修了
- ・同大学 研究員
- ・同大学 助教

所属学会など

日本建築学会

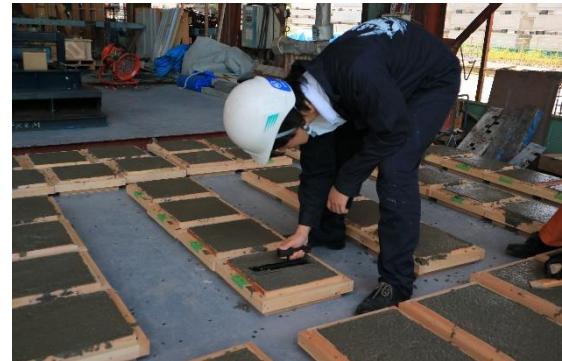
研究紹介

床下地と床仕上げ材の性能に関する研究

人間が建築物内で生活するうえで最も触れる時間が長い建築部位は、床です。

床の性能は、仕上げ材の性能だけではなく、それらを施工する下地の性能も大きく関わってきます。そのため、両者について、材料の特性から施工の仕方まで複合的に考えなければなりません。

そのため、下地の作成から仕上げ材の施工まで一貫して行うことで両者の関係をより詳細に検討し、学術的観点から良い床作りを目指しています。



自分で下地を作成する様子

共同研究の事例

- ① 「床仕上げ前の若材齢コンクリートスラブの放出水分量の現場実測・管理」（2022年～2024年）（日本建設業連合会 仕上材料専門部会との共同研究）
- ② 「床下地の養生の違いによる各種床材料の耐動荷重性に関する検討」（2021年～2023年）（研究会との共同研究）
- ③ 「研磨仕上げ床の諸品質に関する検討」（2025年～現在）（企業との共同研究）
- ④ 「移動荷重用フロアシステム適用下地に関する検討」（2020年～2024年）（企業との共同研究）

主な論文発表

- ① 高分子系張り床材の突き上げとコンクリート床下地の放出水分量の関係：藤井佑太朗、横井 健、福田眞太郎、横山 裕、日本建築学会構造系論文集、第85巻・第767、pp.11-18、2020.01
- ② 塗り床の耐動荷重性とコンクリート床下地の表層部品質の関係：藤井佑太朗、高山博樹、福田眞太郎、横山 裕、日本建築学会構造系論文集、第86巻・第781号、pp.361-370 2021.03
- ③ 動荷重による張り床のふくれ発生の予測方法（その1）：藤井佑太朗、柴山夕香、福田眞太郎、横山 裕、日本建築学会構造系論文集、第90巻・第827号、pp.8-14、2025.01